

IBM Cloud Satellite™

分散クラウドによる 顧客体験の革新

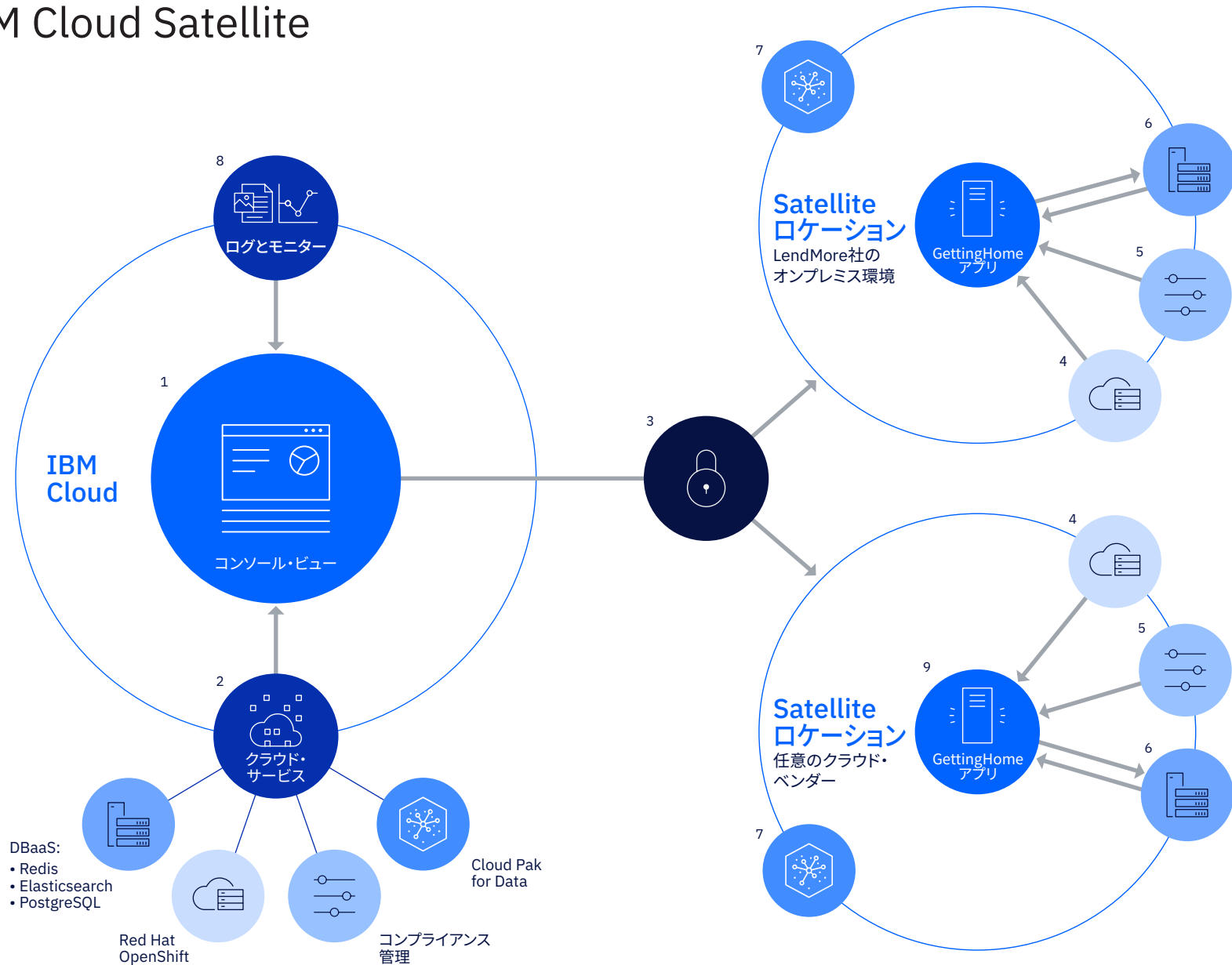
このアーキテクチャー図では、IBM Cloud Satellite により
多国籍銀行のLendMore社(*)が、どのようにして課題を解
決策したかを説明しています。

LendMore 社は、世界中の各地域に事業を展開していく中で、顧客との関係をローン取引
以上のものへと発展させたいと考えていました。同社は、その戦略的計画として、現在顧客
が住宅ローンの申し込みに利用している GettingHome のユーザー体験を、顧客ごとに個
別に設定することを計画しました。LendMore 社は、不動産コミュニティの満足度調査
や、同社が所有する顧客データを分析し、かつ、各地域の主な企業との提携によって入手し
た、関連するライフスタイルの資料や提案をアプリ内で配信しています。クラウド・サービス
で事業を拡大するにあたって、同社の障壁となったのは、主に、金融機関の規制に対するセ
キュリティー・コンプライアンスの管理でした。

ここでご紹介するのは実際のケース・スタディーに基づいていますが、掲載されている企業や組織は架空のものです。LendMore社も架空です。



IBM Cloud Satellite



- 1 IBM Satellite を活用することにより、単一のコンソールからロケーションが定義でき、サービスのプロビジョニングや、導入されたサービスやアプリケーションの監視と管理を行うことができます。
- 2 IBM SRE チームが、IBM Cloud サービスをすべて管理しています。LendMore社は、これらを利用するだけで、革新的にアプリを更新し、より迅速に提供することができるのです。
- 3 Satellite Link トンネルにより、各ロケーションを安全に接続できます。また、インターネットを介さずにネットワーク・セキュリティを実現するために DirectLink もご利用になれます。
- 4 Red Hat Open Shift on IBM Cloud サービスは、コンテナ・レジストリー・オーケストレーションの技術基盤であり、そこで、LendMore 社の GettingHome アプリケーションが Kubernetes クラスター・ノード上にデプロイされています。
- 5 Satellite のサービスには、財務管理機能が組み込まれており、LendMore 社のモダナイゼーションに伴うリスク軽減に役立っています。
- 6 GettingHome は、Redis、Elasticsearch、PostgreSQL などのデータベースを利用して、ハンドル・キャッシュ、フルテキスト検索、トランザクション・データなどのパーソナライズされたユーザー体験を提供しています。
- 7 LendMore 社は、Cloud Pak for Data を利用して、GettingHome のデータが存在する場所から洞察を生成し、パーソナライズされたアプリ体験を実現することができます。
- 8 あらゆる Satellite ロケーションにデプロイされたサービスやアプリケーションからのログ・データは、単一のコンソールで集中管理できます。
- 9 Satellite の各ロケーションで GettingHome を実行するために必要なすべてのクラウド・サービスとツールは、さまざまなベンダーのクラウドを含め、あらゆるリージョンで、一貫性をもってデプロイされ、維持されます。

